

# 令和5年度

## スマートフォン等の利用に関する 実態調査の結果について

### 1 調査の目的

児童生徒のスマートフォン等の所持や利用の状況、トラブル等の実態などを把握することで、児童生徒への指導や保護者への啓発等、今後の取組に資する。

### 2 調査の実施時期

令和5年12月（平成26年から毎年12月に実施）

### 3 調査の概要

- ・ 小学校4年生から高校3年生までの児童生徒を対象
- ・ 県内の小学校33校、中学校32校、高等学校17校を抽出し、抽出された学校において、各学年から1クラスを選び実施

〈調査への回答者数〉

小学校	2,507人	(抽出率5.3%)	}	合計	7,091人	(抽出率5.6%)
中学校	2,853人	(抽出率6.0%)				
高等学校	1,731人	(抽出率5.6%)				

### 4 備考

本報告書において、

- ・ スマホとは、スマホ（スマートフォン）または携帯（従来型の携帯電話）を表す。
- ・ スマホ、パソコン、ゲーム機等ネット接続が可能な機器から利用できる、メール、LINE X（旧Twitter）、Instagram、オンラインゲーム等の総称を「コミュニケーションサービス」と表す。
- ・ 小学生とは、小学校4年生から小学校6年生までを指す。

令和6年5月

岡山県教育庁人権教育・生徒指導課

# (1) スマホ等の利用状況について

〈概要〉 ※以下、小学生は「小」、中学生は「中」、高校生は「高」と表す。

## ① スマホの所持率

- ・「自分専用」及び「契約していない自分専用」のスマホを持っている割合は、小58.1%、中85.3%、高99.2%である。
- ・保護者が使用しなくなったスマホを子どもに与えているケースが増えており、小では「契約していない自分専用のスマホを持っている」割合が高くなっている。

## ② 長時間利用の割合及び学習への活用

- ・学習時間を除くスマホの利用時間の合計が、「平日1日に3時間以上」と回答した割合は、小21.9%、中30.7%、高32.0%となっており、小・中で前年度より増加している。
- ・一方、情報端末を学習に利用している割合は、小82.8%、中80.6%、高83.3%となっており、全国と比較してもその割合は高い。
- ・学習時間を含む情報端末の利用時間の合計が、「平日1日に3時間以上」と回答した割合は、小25.7%、中38.2%、高43.4%となっており、前年度と比較すると、中で増加しているものの、小・高では減少している。

## ③ インターネット(以下「ネット」という。)やコミュニケーションサービスの利用

- ・小では「ゲーム」や「音楽・動画鑑賞」、中・高では「連絡・通話」や「音楽・動画鑑賞」が多い。高では、「SNSを見る・投稿」の割合も高い。

## ④ 平日にスマートフォン等を利用することが多い場面の割合

- ・全校種において「帰宅後の自由時間」が最も多い。中高においては、「夜寝る前に布団の中での時間」も多くなっている。また、特に小で「帰宅後の勉強時間」でも多く使用されているなど、学習で利用されている状況がわかる。

## ① 自分のスマホを持っているか

- ◆ 「自分専用のスマホ・携帯を持っている」「契約していない自分専用スマホを持っている(家族などから譲られたもの)」と回答した割合(%) <本調査の回答者全員が対象>

	R3	R4	R5	対R4増減	R5内訳		R5対象数：人
					自分専用スマホ所持	契約なし自分専用スマホ所持	
小	44.9	47.0	<b>58.1</b>	+11.1	39.6	18.5	2,507
中	75.3	78.3	<b>85.3</b>	+7.0	75.8	9.5	2,853
高	99.5	99.4	<b>99.2</b>	-0.2	97.5	1.7	1,731

※ 学年別のスマホの所持率(R5)

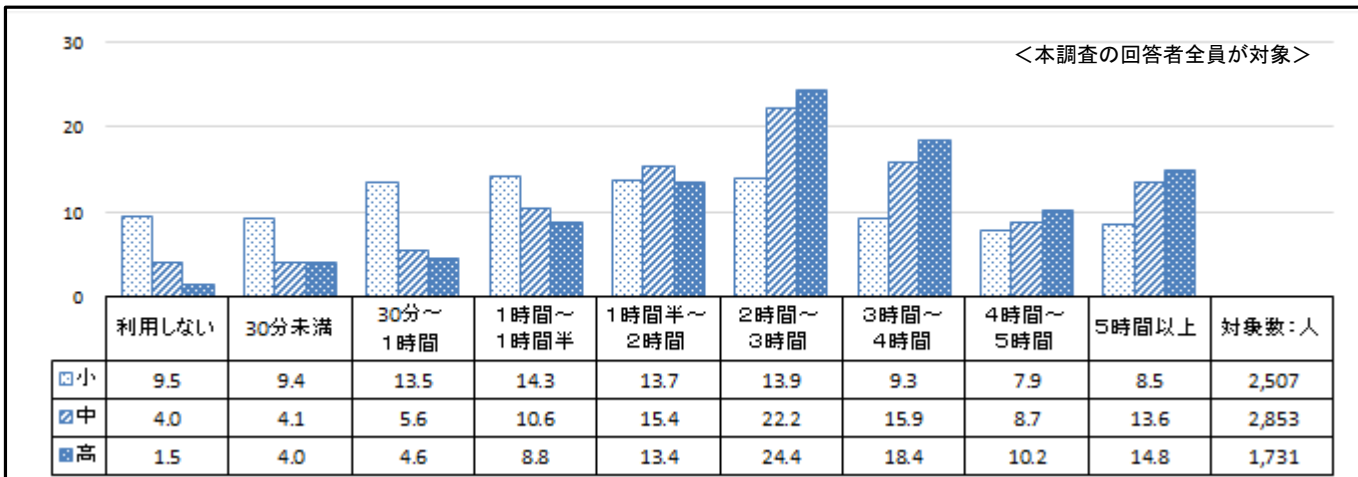
・小4	52.9%	小5	58.2%	小6	62.7%
・中1	80.8%	中2	86.2%	中3	88.7%
・高1	99.2%	高2	99.2%	高3	99.4%

## ② 平日1日当たり、どのくらいスマホを利用しているか

- ◆ スマホの利用時間の合計が「平日1日に3時間以上」と回答した割合(%) <自分専用のスマホを持っている、または家族のものを借りて使っている児童生徒の回答>

	R3	R4	R5	対R4増減	R5対象数：人
小	14.2	19.2	<b>21.9</b>	+2.7	1,972
中	28.2	25.0	<b>30.7</b>	+5.7	2,636
高	39.6	33.7	<b>32.0</b>	-1.7	1,724

※学習の目的で利用している時間を除く



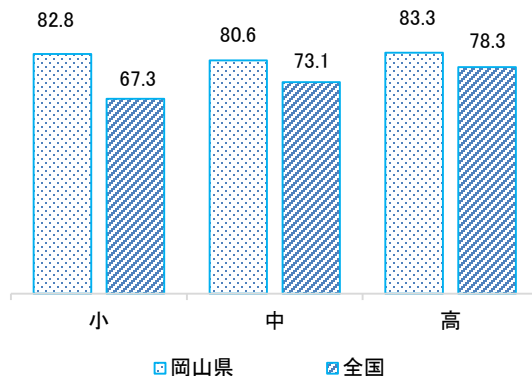
③ 情報端末の学習への活用

※ 例えば、2～3時間は、2時間以上3時間未満を表す。

◆ スマホやパソコン、タブレットの学習への利用の有無の割合(%) <スマホなどを利用すると回答した児童生徒が対象>

R5					
学習に利用する					学習に利用しない
小	82.8 (+2.0)				17.2
	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3時間以上	
	62.4 (+5.2)	15.8 (-2.3)	1.7 (-1.6)	2.9 (+0.7)	
中	80.6 (-3.7)				19.4
	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3時間以上	
	62.7 (-7.8)	11.8 (+0.5)	1.9 (+0.4)	1.1 (+0.1)	
高	83.3 (+0.8)				16.7
	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3時間以上	
	64.9 (-2.2)	14.5 (+2.0)	1.6 (-0.4)	1.0 (+0.1)	

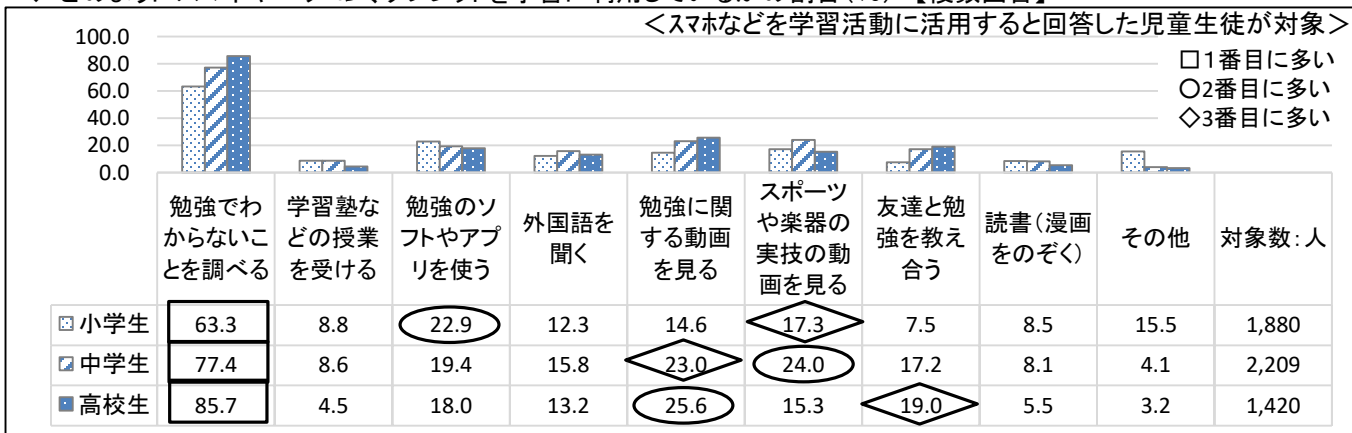
＜参考＞スマホ等の学習への利用の状況



全国値は、青少年のインターネット利用環境実態調査結果【内閣府 R6.3】による。

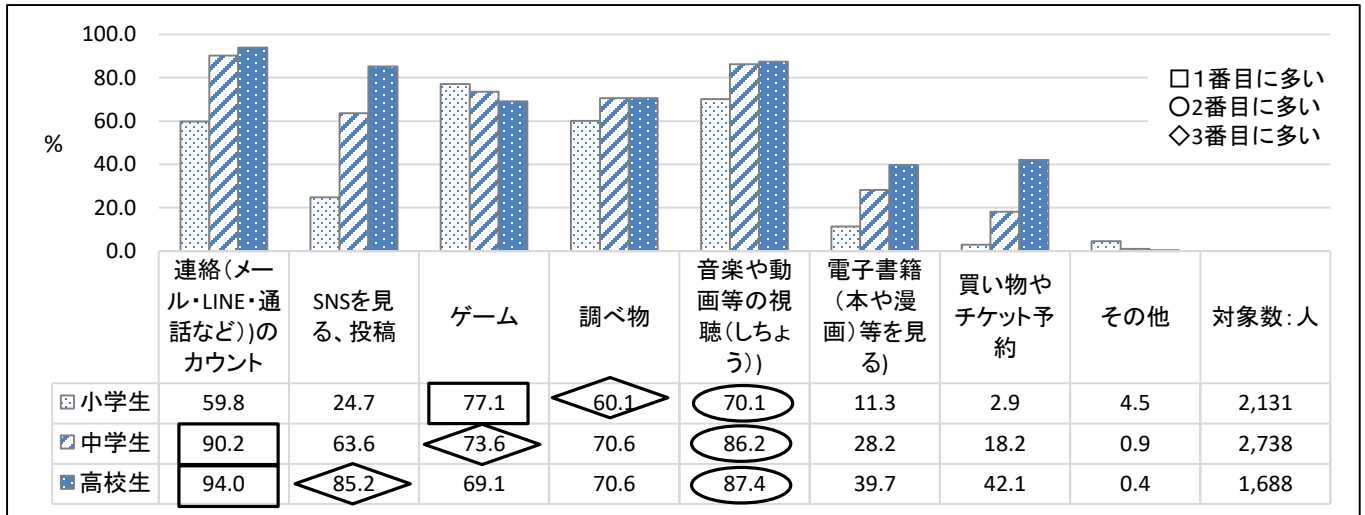
※ ( )は昨年度比

◆ どのようにスマホやパソコン、タブレットを学習に利用しているかの割合(%) 【複数回答】



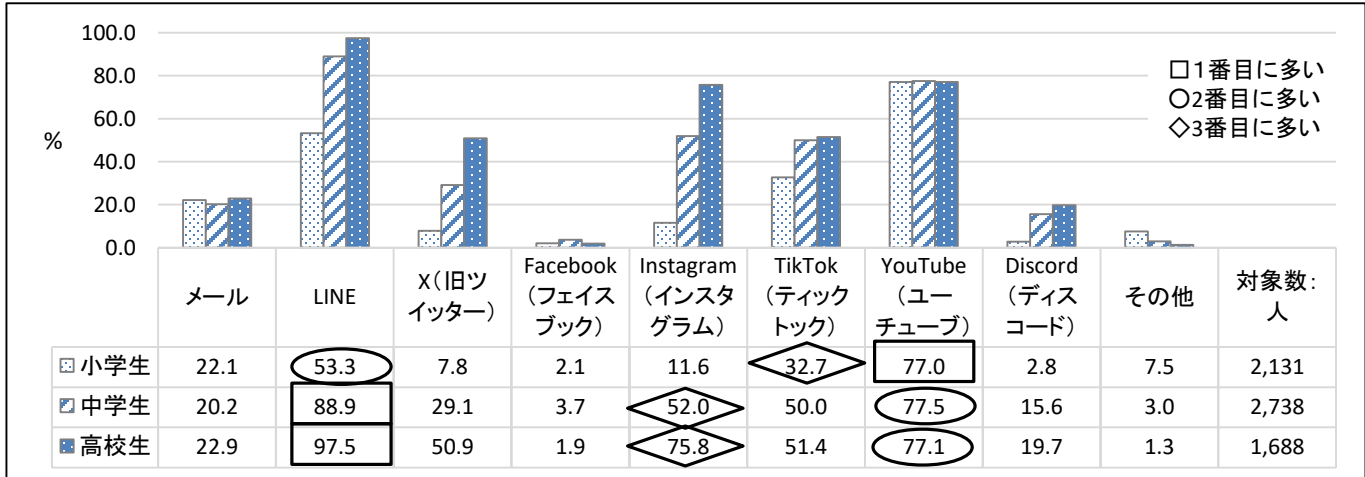
#### ④ ネットやコミュニケーションサービスを利用しているか

◆ サービスで何をするかの割合(%)【複数回答】 <ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答>

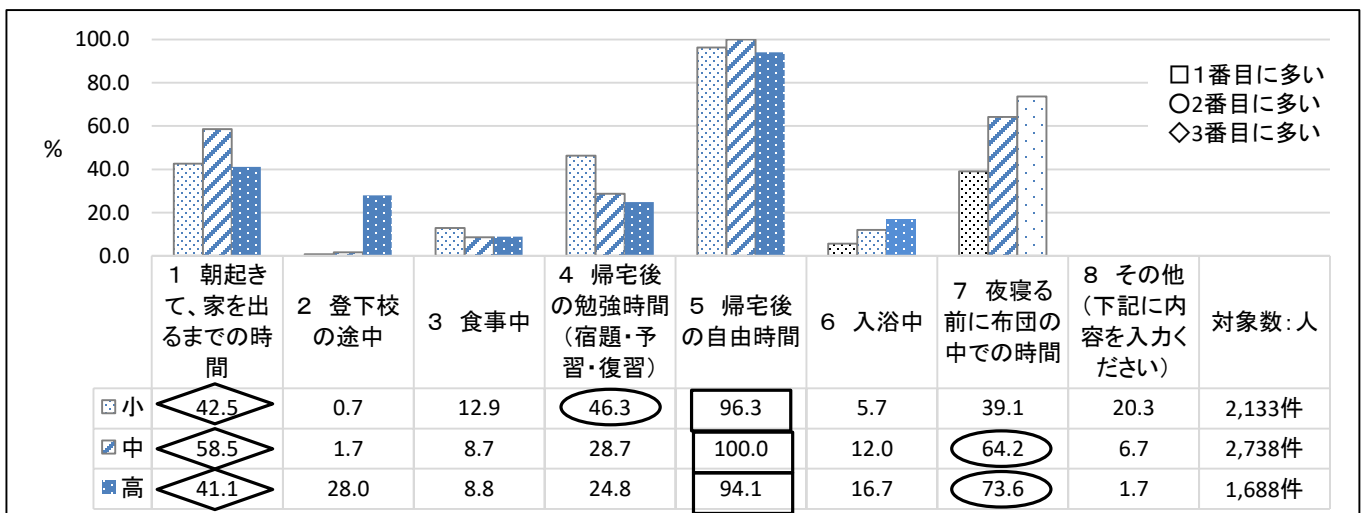


◆ サービス形態別の利用率(%)【複数回答】

<ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒(小学生85.0%、中学生96.0%、高校生97.5%)の回答>



◆ 平日にスマートフォン等を利用することが多い場面の割合(%)【複数回答】





## (2) スマホやネット等を介したいじめやトラブルについて

### 〈概要〉

#### ① 「嫌な経験をしたことがある」割合

全校種で「書き込んだ内容がうまく伝わらず誤解された」と応えた割合が多くなっているが、「嫌な経験をしたことがある」と答えた割合は、小5.3%、中6.6%、高4.4%であり、全校種で前年度より減少している。

#### ② 「悩みや不安を感じている」割合

・「悩みや不安を感じることもある」と答えた割合は、小6.8%、中8.0%、高9.2%であり、小・中で前年度より減少している。

・具体的な悩みや不安の内容別の割合は、小・中で「睡眠不足や視力の低下などの健康の問題に関すること」が多く、高では「利用しているコミュニケーションサービスの中での人間関係」が多くなっている。

#### ③ フィルタリングの設定率

「フィルタリングを設定している」と答えた割合は、小49.7%、中47.3%、高42.6%であり、前年度より、全校種で増加している。

### ① ネット利用によって、嫌な経験をしたことがあるか

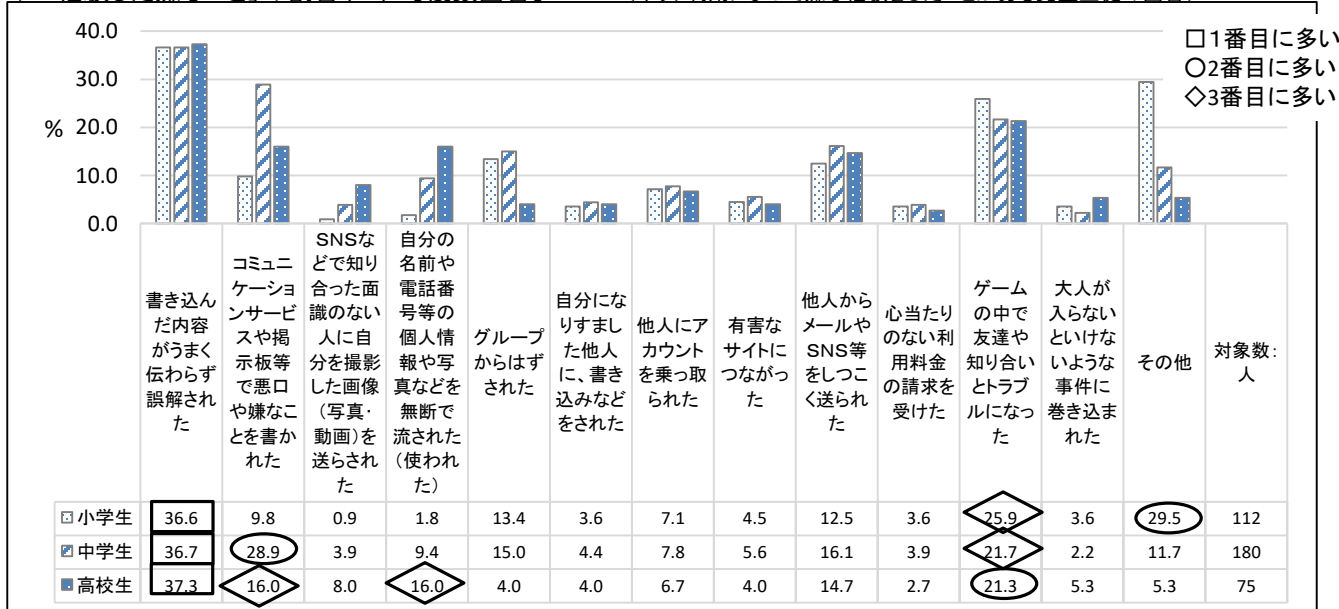
◆ 「ネットやコミュニケーションサービスを利用して、嫌な経験をしたことがある」と回答した割合(%)

〈ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答〉

	R3	R4	R5	対R4増減	R5対象数：人
小	8.3	7.3	<b>5.3</b>	-2.0	2,131
中	8.9	6.9	<b>6.6</b>	-0.3	2,738
高	6.8	5.0	<b>4.4</b>	-0.6	1,688

◆ 「経験した嫌なこと」の割合(%)【複数回答】

〈ネット利用によって嫌な経験をしたことがある児童生徒の回答〉



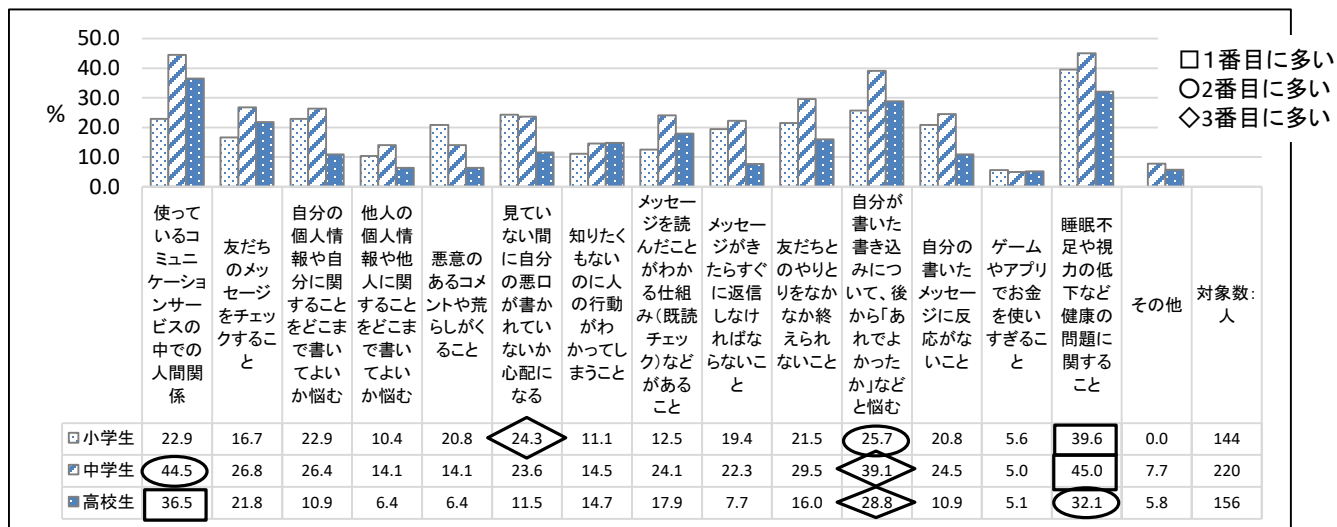
## ② ネット利用によって、悩みや不安を感じたことがあるか

◆「ネットやコミュニケーションサービスを利用して、悩みや不安を感じることもある」と回答した割合(%)  
 <ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答>

	R3	R4	R5	対R4増減	R5対象数：人
小	9.5	9.5	6.8	-2.7	2,131
中	12.4	12.1	8.0	-4.1	2,738
高	10.4	9.2	9.2	±0	1,688

### ◆ 具体的な悩みや不安の内容別の割合(%)【複数回答】

<ネットやコミュニケーションサービスを利用して、悩みや不安を感じることもある児童生徒の回答>



## ③ フィルタリングの設定に関する児童生徒の割合(%) <自分専用のスマホを持っている児童生徒の回答>

※ ( )は昨年度比

	R3	R4	R5			R5対象数：人
	設定している	設定している	設定している	設定していない	わからない	
小	41.9	42.0	49.7 (+7.7)	21.4	28.9	994
中	39.9	43.6	47.3 (+3.7)	25.6	27.1	2,162
高	37.8	36.6	42.6 (+6.0)	35.3	22.0	1,689

※ 「設定している」には、「ネットは使えない機種・設定」と回答した児童生徒を含む。

### (3) スマホの利用に関する家庭のルールや、ネットの危険性等に関する学習について

#### 〈 概要 〉

##### ① 家庭のルールの有無

- ・家庭のルールが「ある」と答えた割合は、小55.9%、中46.0%、高20.6%であり、全校種で前年度より減少しているが、「自分の決めごとはある」と答えた割合を含めると、小70.3%、中63.5%、高40.3%であり、一定のルールに基づいてスマホを利用している割合が小・中で高いことがうかがえる。
- ・「ペアレンタルコントロールを利用している」と答えた割合は、小39.2%、中34.4%、高15.7%であり、全校種で前年度より増加している。

##### ② 家庭のルールの内容

- ・全ての校種で、「知らない人からのメール等に返信しない」、「困ったときは保護者に相談する」が多い。
- ・小・中では「使う時間について決めている」、高では「他人が傷つくような書き込み等はない」が多く、スマホの利用については年齢が上がるにつれ、ルールからマナーへと変化している様子が見られる。

##### ③ 危険性等の学習の状況

- ・スマホやネットの危険性について、「教えてもらったり、学んだりしたことがある」と答えた割合は、前年度同様に全校種で高い水準を維持しており、全国と比較すると、小+11.7%、中+8.3%、高+6.1%とその割合は高い。
- ・全ての校種において、「学校」で学んだ、教えてもらったと答えた割合が高く、情報モラル教育の成果がみられる。

#### ① スマホの利用に関して家庭のルール等が設定されているか

◆ 家庭のルールの有無に関する回答の割合(%)

< 普段からネットやSNSを利用している児童生徒の回答 >

※ ( )は昨年度比

◆ ペアレンタルコントロールが利用されている児童生徒の割合(%)

< 自分専用のスマホを持っている児童生徒の回答 >

※ ( )は昨年度比

	R3	R4	R5			R5対象数:人
	ある	ある	家庭のルールがある	自分の決めごとはある	ない	
小	64.9	57.8	<b>55.9 (-1.9)</b>	14.4	29.7	2,131
中	52.0	51.6	<b>46.0 (-5.6)</b>	17.5	36.5	2,738
高	21.0	21.2	<b>20.6 (-0.6)</b>	19.7	59.7	1,688

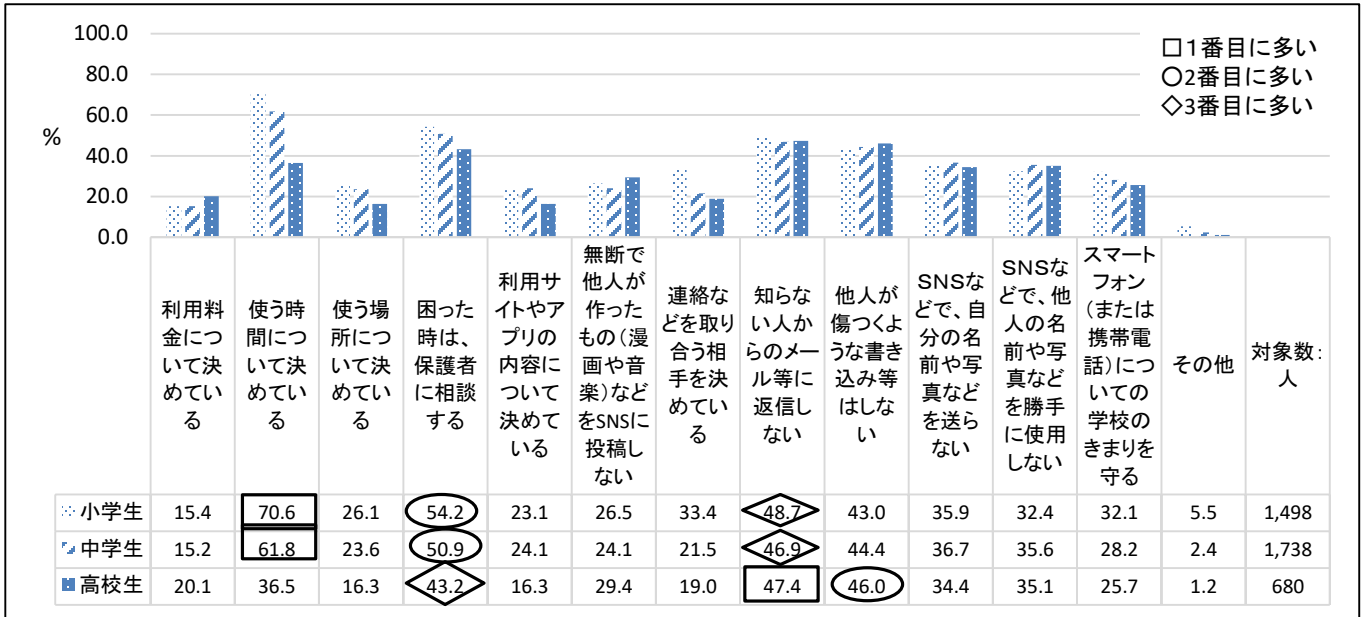
	R3	R4	R5			R5対象数:人
	はい	はい	はい	いいえ	不明	
小	30.3	31.9	<b>39.2 (+7.3)</b>	30.9	29.9	994
中	25.5	30.8	<b>34.4 (+3.6)</b>	45.5	20.1	2,162
高	10.3	10.9	<b>15.7 (+4.8)</b>	70.5	13.8	1,689



## ② どのようなルールを決めているか【複数回答】

### ◆ 家庭のルールに関する回答の割合(%)

<スマホの利用に関して家庭や自分のルールが設定されている児童生徒が回答>



## ③ スマホやネットの危険性について、「教えてもらったり、学んだことがある」と答えた割合(%)

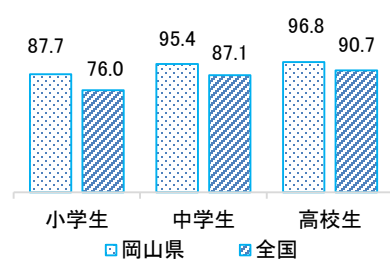
### ◆ スマホやネットの危険性について、「教えてもらったり、学んだりした」経験の有無に関する回答の割合(%)

<本調査の回答者全員が対象>

※ ( )は昨年度比

	R3	R4	R5			R5対象数:人
	ある	ある	ある	ない	不明	
小	89.5	84.7	87.7 (+3.0)	6.7	5.6	2,507
中	94.7	95.7	95.4 (-0.3)	2.1	2.5	2,853
高	96.4	96.6	96.8 (+0.2)	1.7	1.4	1,731

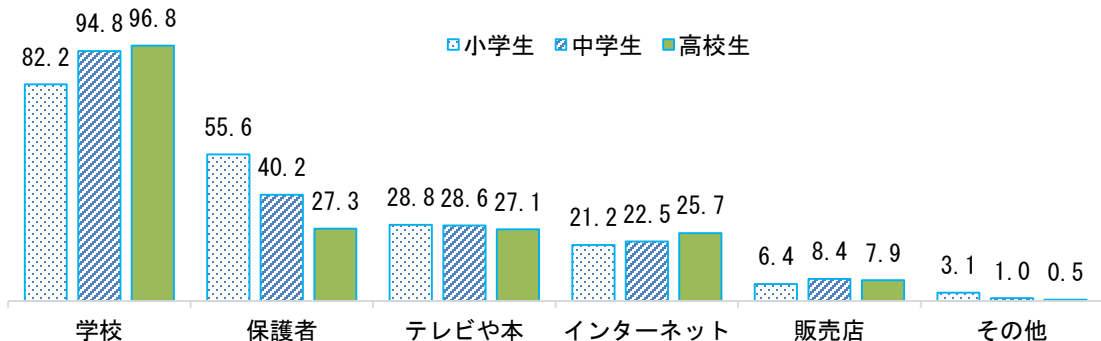
※ スマホ等の危険性の学習の状況



全国値は、青少年のインターネット利用環境実態調査結果(速報)【内閣府 R6.2】による。

### ◆ スマホやネットの危険性について、どこで学んだり、誰に教えてもらったりしたかの回答割合(%)【複数回答】

<スマホやネットの危険性について、教えてもらったり、学んだりした経験のある児童生徒の回答>



**【参考】 ネット依存傾向について <令和5年度岡山県学校保健概要調査 (R5.12) 速報値から>**

○ネット依存 <アメリカ心理学者 キンバリー・ヤング (1965-2019) >

「インターネットに過度に没入してしまうあまり、コンピューターや携帯が使用できないと何らかの情緒的苛立ちを感じることで、また実生活における人間関係を煩わしく感じたり、通常の対人関係や日常生活の心身状態に弊害が生じているにも関わらず、インターネットに精神的に嗜癖してしまう状態」

**【ネット依存傾向チェックシートの概要】 - 保健体育課 -**

◆小学生:簡易版8項目 ※○の数で判定

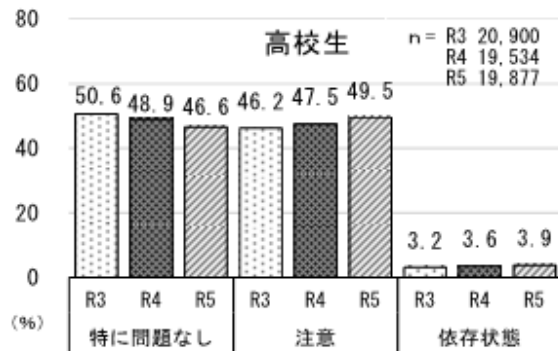
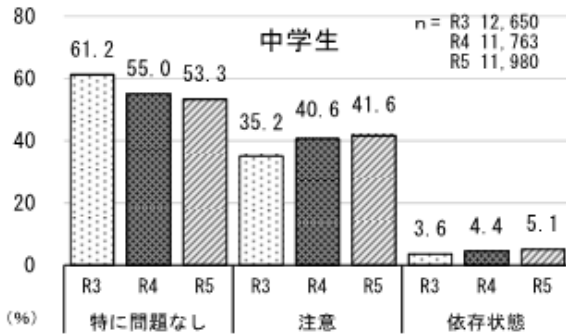
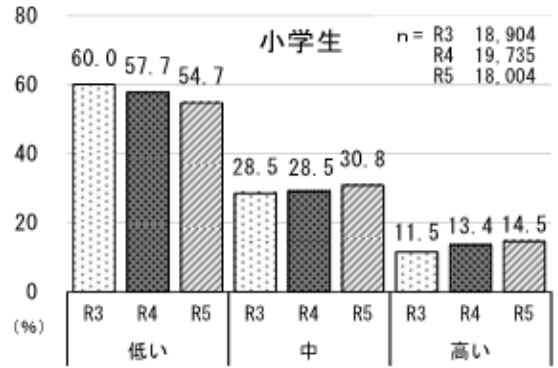
低い: 0~2個 中: 3~4個 高い: 5~8個

◆中・高校生:詳細版20項目 ※各項目5点の点数化で判定

総得点 ①特に問題なし: 20~ 39点

②注意 : 40~ 69点

③依存状態 : 70~100点



◆簡易版8項目 (小学生)

◆詳細版20項目 (中・高校生)

① ネットに夢中になっていると感じることがある。
② 満足感を得るために、ネットを使う時間を長くしたいと感じることがある。
③ ネットの利用を制限したり、時間を減らしたり、完全にやめようとして失敗したことがたびたびある。
④ ネットの使用時間を短くしたりやめようとすると、落ち着かなかったり、不機嫌になったり、落ち込んだり、イライラしたりすることがある。
⑤ 使い始めに思っていたよりも、長い時間、ネットをつないだ状態であることがある。
⑥ ネットのために、大切な人間関係、学校のことや部活動のことを台無しにしたり、危うくすることがある。
⑦ ネットへの熱中しすぎを隠すために、家族、先生やそのほかの人たちに嘘をついたことがある。
⑧ 自分にふりかかった問題から逃げるため、または絶望、不安、落ち込みといったいやな気持ちから逃げるために、ネットを使うことがある。

① 気がつくと思っていたより長い時間、ネット等を利用していることがある。
② 長い時間ネット等を利用していたために、家の手伝いや役割をおろそかにすることがある。
③ 家族や友達と過ごすよりも、ネット等の利用を優先したいと思うことがある。
④ ネット等を介して、新しく知り合い(友人を含む)を作ることがある。
⑤ まわりの人から、ネット等の利用時間や回数について注意されたことがある。
⑥ ネット等をしている時間が長く、学校の成績に影響することがある。
⑦ ネット等への関わりが原因で、勉強の能率に悪影響が出ることがある。
⑧ 他にやらなければならないことがあっても、まず先に、LINE (ライン) やTwitter (ツイッター)、Facebook (フェイスブック)、メールなどをチェックすることがある。
⑨ 人に、ネット等で何をしているのか聞かれたとき、いいわけをしたり、隠そうとしたりすることがある。
⑩ 日々の生活の問題から気をそらすために、ネット等で時間を過ごすことがある。
⑪ 気がつけば、また次のネット等の利用を、楽しみにしていることがある。
⑫ ネット等のない生活は、退屈で、むなしく、わびしいだろうと不安に思うことがある。
⑬ ネット等を利用している最中に誰かに邪魔をされると、いらいらしたり、怒ったり、言い返したりすることがある。
⑭ 夜遅くまでネット等に関わるのが原因で、睡眠時間が短くなっている。
⑮ ネット等をしていないときでも、ネット等のことを考えてぼんやりしたり、ネット等をしているところを空想したりすることがある。
⑯ ネット等をしているとき「あと数分だけ」と自分で言い訳していることがある。
⑰ ネット等をする時間や頻度を減らそうとしても、できないことがある。
⑱ ネット等をしている時間や回数を、人に隠そうとすることがある。
⑲ 誰かと外出するより、ネット等を利用することを選ぶことがある。
⑳ ネット等をしている時は何ともないが、ネット等をしていない時はいらいらしたり、憂鬱な気持ちになったりする。

## (4) 成果と課題

(成果:○ 課題:▲)

- 「ペアレンタルコントロールを利用している」割合は、全校種で増加している。  
＜小＞ R4: 31.9% → R5: 39.2%      ＜中＞ R4: 30.8% → R5: 34.4%  
＜高＞ R4: 10.9% → R5: 15.7%
- 「フィルタリングを設定している」割合は、全校種で増加している。  
＜小＞ R4: 42.0% → R5: 49.7%      ＜中＞ R4: 43.6% → R5: 47.3%  
＜高＞ R4: 36.6% → R5: 42.6%
- 「ネットやコミュニケーションサービスを利用して、悩みや不安を感じることもある」割合は、小・中で減少している。  
＜小＞ R4: 9.5% → R5: 6.8%      ＜中＞ R4: 12.1% → R5: 8.0%  
＜高＞ R4: 9.2% → R5: 9.2%
- 「ネットやコミュニケーションサービスを利用して、嫌な経験をしたことがある」割合は、全ての校種で減少している。  
＜小＞ R4: 7.3% → R5: 5.3%      ＜中＞ R4: 6.9% → R5: 6.6%  
＜高＞ R4: 5.0% → R5: 4.4%
- 「スマホやネットの危険性を教えてもらったり、学んだことがある」割合は、中・高で高水準を維持しており、小で増加している。  
＜小＞ R4: 84.7% → R5: 87.7%      ＜中＞ R4: 95.7% → R5: 95.4%  
＜高＞ R4: 96.6% → R5: 96.8%
- ▲ 「家庭のルールがある」割合は、全校種で減少している。「自分の決めごとはある」と答えた割合を含めると、一定のルールに基づいてスマホを利用する児童生徒の割合は高いものの、家庭でのルールを子どもと話し合いながらつくるなど、保護者への啓発を更に充実させる必要がある。  
＜小＞ R4: 57.8% → R5: 55.9%      ＜中＞ R4: 51.6% → R5: 46.0%  
＜高＞ R4: 21.2% → R5: 20.6%
- ▲ 「平日1日に、平均3時間以上スマホを利用している」(学習の目的で利用する時間は除く)割合は、高で減少しているものの、小・中で増加しており、引き続き、利用時間や内容等の把握に努めていく必要がある。  
＜小＞ R4: 19.2% → R5: 21.9%      ＜中＞ R4: 25.0% → R5: 30.7%  
＜高＞ R4: 33.7% → R5: 32.0%
- ▲ 「ネット利用による、悩みや不安」の内容別の割合は、全ての校種で「睡眠不足や視力の低下などの健康の問題に関すること」が高くなっており、スマホの利用が及ぼす生活リズムや健康面への影響についての啓発を充実させていく必要がある。  
＜小＞ R5: 39.6%      ＜中＞ R5: 45.0%      ＜高＞ R5: 32.1%

## (5) 今後の取組

(政令指定都市である岡山市を除く)

県のスマホ・ネット問題総合対策の推進により、学校やPTA、市町村教委において、引き続き積極的に児童生徒の主体的な活動による適切な利用や、家庭でのルールづくりに関する保護者啓発等の取組の充実を図る。

### ① 児童生徒の主体的な活動の促進

スマホサミット等により、情報端末の学習や、日常生活におけるアプリ等の有効活用に関する協議・取組やスマホやネットの適切な利用を促進する。

### ② 児童生徒への情報モラル教育の更なる充実

- ・ 中核教員の養成研修を経た教員を中心に、児童生徒の発達段階に応じた情報モラル教育を実施する。
- ・ 校内研修資料を作成し、各校に提供する。
- ・ 各校の生徒指導担当者等を対象とした県教委主催の研修会において、スマホ等の利用の実態を周知し、教科指導の場面だけでなく、外部講師の出前授業を行い、各校において情報モラルを育成する教育の推進と充実を図る。また、スマホの長時間利用による生活リズムの乱れや、健康面の影響についても啓発を進める。
- ・ 警察と連携した「非行防止教室」により、SNS等による犯罪被害やいじめ等の実例を交えた授業を推進する。

### ③ 家庭や地域への啓発活動の充実

- ・ 家庭学習の充実を図るために、保護者に提示している家庭用資料にタブレット端末の活用についての留意点を記載し、家庭での端末利用に関するルールづくりについて啓発を進める。
- ・ 既存の啓発チラシに加え、昨年度新たに作成した「今こそ見直そう！わが家のスマホ・ネットルール」や「スマホ・ネット利用をセルフモニタリングしてみよう！！」を入学説明会や保護者面談等で活用し、直接周知することで、家庭のルールや自分のルールを見直すきっかけとする。
- ・ ルールづくりに関する参加型のワークショップ(利用時間制限やアプリ制限等のペアレンタルコントロール設定等)を実施する。
- ・ 「ぱっちり！モグモグ」生活リズム向上キャンペーンの中で、学校と家庭の連携による、スマホ・ネットの適切な利用に関する取組を推進する。また、好事例を活動資料で紹介する。

### ④ 情報端末の学習への活用を推進

- ・ 県総合教育センターHPで紹介している教職員のICT活用指導力向上のための「教育の情報化ユニット研修(GIGA端末導入期編31項目)」とあわせて、動画資料の「教育の情報化ユニット研修プラス(授業づくり編5項目)」により、具体的な活用方法を示していくことで、情報端末の学習への活用を推進する。

# スマホ・ネット問題総合対策の推進

## 背景は

- \* いつでもどこでも簡単にネットに接続できる環境
- \* 児童生徒のスマホ等の所持率の増加
- \* 情報メディアの活用に関する知識・技術の不十分さ
- \* 情報社会のルールやマナー習得の不十分さ
- \* 保護者、大人の知識・技術、危機意識の低さ 等

## 子どもをめぐるスマホ・ネット問題とは

- \* 長時間ゲームをするなどのネット依存
- \* 誹謗中傷やいじめにつながる仲間外しなどのネット上の人権侵害
- \* 課金、犯罪被害に遭うなどのネットトラブル

## 現状と取組の目標指標

### ○家庭でのルールづくりの促進（家庭でのルールがあると答えた割合）

R1実績 小(61.9%) R5実績 小(55.9%) R6目標値 小(65%)  
(目標設定時) 中(49.4%) ⇒ 中(46.0%) ⇒ 中(55%)



## 学校

### 児童生徒の主体的な活動の促進

継続・成果普及 【教育委員会】

- 『OKAYAMAスマホサミット2024』の開催
  - ・ 中学生部会、高校生部会の開催による発達段階に応じた取組の活性化
  - ・ 保護者部会の開催による、家庭でのルールづくりに向けた啓発活動について協議
  - ・ 成果報告会(11月)の開催  
※教職員・保護者対象

### ネット依存への対策

継続・成果普及 【教育委員会】

- ネット依存の未然防止や早期対応
  - ・ ネット依存防止マニュアルの活用と指導の推進
  - ・ 教職員への研修の充実

### ネット上のいじめ・トラブルへの対応

継続 【教育委員会】

- 悩みや不安を抱えた時の匿名相談アプリ活用事業
  - ・ スマホ等を介して匿名で学校にいじめや悩み等を相談できるシステムを全県立学校で活用し、早期発見・早期対応を促進

### 実態把握に基づく対応の推進

継続 【教育委員会】

- スマートフォン等の利用に関する実態調査
  - ・ 児童生徒の利用実態に関する調査を継続し、取組全体の効果検証と課題を把握し、指導に活用
- 学校保健概要調査
  - ・ ネット依存に関する取組や児童生徒の依存傾向等を実態把握し、指導に活用

## 家庭・地域等

### 家庭・地域等への啓発活動の促進

継続・強化 【教育委員会】

- 保護者研修の充実
  - ・ PTA指導者研修等で子どもをめぐるスマホ・ネット問題についての学習機会を確保し、単位PTAでの取組を促進
  - ・ 啓発資料を活用し、ペアレンタルコントロールの重要性や設定方法を周知
  - ・ 入学説明会や就学時健診で「親育ち応援学習プログラム」等の参加型ワークショップを実施し、スマホ・ネットの適切な利用や家庭でのルールづくりを促進
  - ・ スマホ・ネット問題に関わるPTA活動の好事例を収集し、活動資料で紹介
- 地域住民等への啓発活動の推進
  - ・ 学校通信等を活用した啓発活動を推進
  - ・ 家庭教育企業出前講座の取組を推進

### 関係機関等と連携した対応

継続

- 『スマホ・ネット問題解決タスクフォース』
  - ・ フィルタリングやペアレンタルコントロールの設定促進など、携帯電話事業者も参画した官民一体の取組を推進 【子ども家庭課】
- 『非行防止教室』
  - ・ SNS等に起因する犯罪被害や非行、いじめ等の実例を交えながら適正利用やフィルタリングの重要性、携帯電話業者と合同した授業を推進【県警本部少年課】
- ネットパトロール 【教育委員会】

学校と家庭・地域が連携し、子どもを守る体制の構築